

平成31年度

学校経営方針

平成31年 4月 5日(金)

新宿区立愛日小学校

校長 山貝正海

【はじめに】 (こんな気持ちで学校の価値を創造していきたい。)

1、「チーム愛日」で職場の風土づくり：＜「One for all, All for one」の精神＞

◇「教師自身が最高の教育環境」 「教育者として、学び続けるものでありたい。」

私たちは、教育職という専門職の公務員です。国民の公僕として、次世代の人材を育てる責任を背負ったプロとしての自覚をもちましょう。一人のプロとして自立した教師が、まずは、自分の責任ある教育活動を全うしていきましょう。そのための、経験に応じた自己啓発と積極的な研修をお願いします。

◇子どもたちの生きる力を育み、健全育成を図って次世代を担う人材を育成する。

自己啓発と不断の研修の目的は、「子どもたちのため」が第一義ですが、そのうえで、仕事は組織人として、一人一人がみんなのために働く。みんなの力が一つになって学校組織としての1つの成果(勝利 one)を生み出していく。

◇全教職員が一致団結し、児童一人一人の着実な成長を図る教育活動を共同して進める。

そんな学校風土を継続して築いていきたいと思います。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

2、子供たちの健全育成を目指して保護者・地域と連携：＜「Partnership」の精神＞

◇地域協働学校として 麗しきパートナーシップで連携

学校教育の目的は、大きくとらえれば次世代を担う人間の育成することだと考えます。その目的、【子どもたちの健全育成】は、学校のみでは成しえませんが、家庭に育ち、地域との関わりがあって初めて達成されるものであると考えます。保護者や地域の方とは、麗しきパートナーシップを築ける学校経営を推進していきたいと考えます。

◇「子どもたちの健やかな成長」のためにパートナーシップの精神

保護者や地域の方々にたくさんのお力もいただき、支えていただきながら、学校も最大限の協力を惜しまない。PTAの活動にも、気持ちよく協力していきたいと思います。町会や箆笥地域育成会の行事にもできる限り気持ちよく協力していきたいと思います。土日の行事への協力もお願いしなければならないときもあるかもしれませんが、可能な範囲でご協力をよろしくお願いします。

3、子どもたちへのメッセージ：行動目標 「人に喜んでもらえることをやる」

人に喜んでもらった時、人は爽やかで幸せな気持ちになれます。「いたわりのこころをもつ子ども」を育てるための行動目標です。私自身が、常にどこかで意識したいと思っていますし、いろいろな場面で、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

「友だちを笑顔にしよう。」「友だちの笑顔は、自分の笑顔も作ります。」

1、教育目標

・人権尊重の精神に基づき、自他の生命を尊び、心身ともに健康で、知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の教育目標を定める。

- | | |
|--------------------|-------|
| ○ (あ) あいさつをする子 | |
| ○ (い) いたわりのところをもつ子 | |
| ◎ (じ) じぶんから学ぶ子 | |
| ○ (つ) つよくげんきな子 | ◎重点目標 |

2、基本方針

(1) 確かな学力の育成

(じ) 自分から学ぶ子

知識・技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動しよりよく問題を解決する資質能力を育成する。

(2) 豊かな人間性の育成

(あ) あいさつをする子 (い) いたわりの心をもつ子

自らを律しつつ、他とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を育成する。

(3) たくましく生きる心と体の育成

(つ) 強く元気な子

自己の生活を見つめ、逞しく生きるための健康や体力を身に付ける。

上記の教育目標を掲げ、新宿区の教育ビジョンに則り、伝統と校風を大切にするとともに温かな地域性を十分に生かし、公教育の目的である「確かな基礎学力の定着」と「人間性豊かな児童の育成」のために、個に応じたきめ細かな教育活動を展開し、**保護者・地域の信頼に応える教育**を実践する。

3、経営理念

(1) 本校の使命

・開校139年の伝統と校風を継承し「安全・安心な学習環境」の中で児童一人一人に対して「確かな学力の向上」を図り「豊かな人間性」を身に付けさせ、21世紀を逞しく生きる人間としての基盤を育てるとともに、保護者・地域からの信頼と期待に応える。

(2) 目指す学校像

開校の精神を受け継ぎ、児童・教職員・保護者・地域による**地域協働学校**として「**一人一人を大切にする学校**」を目指す。

① 児童にとって「**楽しい学校**」を目指す。

【温かい教師のいる学校】

◇ 教師や友達と関わり合う喜びや楽しさがある学校。

【元気で明るい雰囲気のある学校】

◇ 友達から認められる喜びがあり、自分の存在する居場所がある学校。

【充実した授業のある学校】

- ◇ 分かる楽しさがあり、学び合いがある学校。
- ② 教職員が「協働し高め合える学校」を目指す。
- ◇ 専門職としての自覚と指導力をもち、教育者としてまなび続ける学校。
 - ◇ 児童・保護者との信頼関係を大切にする学校。
 - ◇ 日々の言動に責任をもち、切磋琢磨し高め合うことができる学校。
- ③ 保護者・地域にとって「信頼でき、誇りに思う学校」を目指す。
- ◇ 教育方針や教育活動の情報を提供し、地域と協力して子供たちを育てる開かれた学校。
 - ◇ 基本的な生活・学習態度を基盤に、生涯学び続けることのできる基礎力を身に付けさせる学校。
 - ◇ 児童・職員が安全に安心して活動するための環境整備・危機管理が徹底している学校。

4、教育目標にせまるための方策・特色ある教育活動

(1) 愛日スタンダードによる学習規律の定着を図り、基礎学力の向上と学習意欲を高める確かな学力の育成と協働的な学び合いのある授業の実現。

- ① 教育課程の適正な編成・実施を通して授業の充実と授業時数の確保を図る。
(振替なしの土曜授業を3回実施し、確かな学力の定着を図る。また、区学力調査を活用するとともに、放課後学習支援事業と学校が連携して取り組み、確実な基礎・基本の定着を図る。)
- ② 週案により指導内容や実時数の進行管理を行い、教科の目標達成と授業時数の確保を図る。
- ③ 「愛日スタンダード」による学習規律の共有化を図り、学習効果を高める。
- ④ 3年生以上で児童の習熟度に応じた算数指導を行い、個に応じたきめ細かな指導を実施する。
- ⑤ 話を聞く力、分かり易く伝える力を伸ばし、協働的な学び合いの力を育てる。
- ⑥ 朝読書、必須教材暗唱活動により、表現力・読解力の向上を図る。認定証の発行で児童の意欲を喚起する。**【必須教材は残し、担任の確認も2つの選択とする。】**
- ⑦ 児童の学習意欲を高めるため、体験的な学習や課題解決的な学習を重視し、教育機器を活用した学習、地域人材や専門機関を活用した学習を行う。
- ⑧ 専門的な立場の英語コーディネーターと連携し、ALTを活かした英語活動を行い、児童が必要意欲をもって意欲的に取り組める英語活動を実施する。
- ⑨ 校内研究の充実を図り、授業改善に取り組む。OJTの一環として分科会ごとに互いに高め合える協働的な授業研究を実施する。

(2) 自主性・社会性を身に付け、豊かな人間性の育成を図る。

- ① 話し合う活動を重視し、学習内容を練る・高める・多様な考えに気付くことを大切にする。「聞く・話す・話し合う力」を高め、対話的学びの授業を工夫する。

- ② 児童集会を設定し、児童が主体となって進めることにより、人と関わる楽しさや計画し実行することの充実感を体得させる機会とする。
- ③ 「認める」「褒める」ことを大切に、「諭す」「叱る」など必要な指導を適切に行う。
- ④ 個人面談の充実を図り、保護者の思いを十分に受け止め、児童理解に努める機会とする。**【家庭訪問は地域訪問とし、住居・環境の確認を主としたものとする。】**
- ⑤ 道徳授業地区公開講座の内容を工夫し、地域・保護者と学校が連携して児童の道徳性を培う。
- ⑥ **音楽会**を実施し、表現活動を通して豊かな感性を育む。
- ⑦ 開校139年の歴史を受け継ぎ、学校に関わってきた先人たちの苦労や思いを知り、学校への愛着心を培い、発展のために力を尽くそうとする態度を育成する。
- ⑧ 思いやりの心や社会生活のルールなど、人として大切なことを意図的、計画的に継続して指導する。

(3) **たくましく生きる心と体の育成**を図る

- ① 行事や体験的な学習を通し、児童の自尊感情を高め困難を克服する力を育てる。
- ② 特別支援コーディネーターを中心に専門家チームと連携し、配慮を要する児童について全教職員で見守り、共通理解を図る。
- ③ 学級担任と区派遣心理士・都派遣心理士との連携を密にし、児童理解を深め児童が安心して通える学級作りを行う。
- ④ 体力テストを基に体力・運動の課題を意識付けた授業の充実を図り、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ基礎を培っていく。さらに生活リズムや食生活の大切さについても指導の充実を図る。
- ⑤ 放課後子ども広場の関係者と連携し、子ども同士の関わりを増やすと共に、遊びや学習の充実を図る。**【広場との日常の情報共有をより一層強化に努めていく】**

(4) **学習環境の整備と危機管理の徹底、健康・安全教育の推進。**

- ① 子供の生命・人権・安全に配慮して報告・連絡を密にする。緊急時に即対応できる体制を整える。
- ② 1年生は年間で集団下校を実施。2年以上は複数で下校する指導を徹底する。全児童に地区班の集団下校訓練の定着を図り、児童の安全な下校を確保する。
- ③ セーフティ教室や薬物乱用防止教室、地域安全マップ作り等の学習を設定し、自分で自分の命を守ろうとする態度や能力を育成する。
- ④ 地域協働学校運営委員会を中心に地域・保護者と連携して、子供たちの安全を守る体制を定着させる。
- ⑤ 学習環境を安全で清潔に保つとともに、子供の活動の様子や子供の良さが分かる掲示を工夫し、子供同士の好ましい学び合いが生まれる環境の配慮をする。
- ⑥ 施設・設備の計画的な整備・充実を図るとともに、複数職員による校内安全点検の定期的実施し教室内の整備、清掃活動の充実を図る。
- ⑦ 災害・ケガや事故・不審者、個人情報に対する危機管理体制を確立するとともに、防災教育を推進し、自分の命を自分で守る児童の育成を図る。
- ⑧ ケガや流感等の伝染病を未然に防ぐ方策を工夫する。

(5) **地域社会との連携や情報の積極的な発信**による特色ある開かれた学校づくり。

- ① 地域の人と全校児童による「あいさつ隊」の活動を通し、心のつながりのある学校生活の場を作る。
- ② 保・幼・小・中との連携による滑らかな学びの接続を図る。交流活動・異学年及び若竹学級との交流充実に努め、思いやりの心を育てより良い人間関係を深める
- ③ 地域・専門家の協力を得て菜園で育てた野菜を使い「一流シェフに学ぶ料理教室」を実施する。食や野菜作りを大切に感謝する心を培うとともに、キャリア教育の機会とする。
- ④ 校舎の緑のカーテン推進活動や栽培活動に取り組み、環境教育の推進を図る。
- ⑤ 地域の伝統や人材を活かした教育活動を進める。児童が地域活動に積極的に参加することを促し、地域への愛着と地域を大切にしようとする心を育てる。
- ⑥ 保護者や保護OBによる図書ボランティアを導入し、図書館推進員やスタッフと連携し図書室の環境整備や読み聞かせを通した朝読書の充実を図り、読書への興味・関心を高める。
- ⑦ コーディネーターの活用により地域の教育力・教育資源の積極的な活用を図る。

(6) **職員の資質能力向上**と**学校組織の活性化**。

- ① 教職員は校内外に広く研修の場を求め、自己申告に基づく実践と目標達成に努め資質の向上に励む。
- ② 教職員は学年・学級・専科経営案、年間指導計画、週案、自己申告等で実践の見直しをもち、随時自己点検し、改善や調整を行う。
- ③ 分掌組織の連携のためお互いが報告・連絡・相談を行う。各自が役割と責任を自覚し、創意工夫し効率的な仕事を進める。ICTを活用し、諸会議を精選するとともに、効率よく進める。
- ④ 副担任制を実施し、児童や保護者に丁寧に対応できるようにする。

(7) **教育公務員としてその職責**を果たす。

- ① 主幹・主任を中心にOJT体制をつくり、若手教員の育成と互いの資質の向上を目指す。
- ② 学校予算の計画的・効率的な編成と適正な執行を行う。私費負担の適正な執行を行い保護者に対する説明責任を果たす。
- ③ 常に勤務態様を明らかにし、サービスの厳正に努める。

【平成32年度 新学習指導要領完全実施にむけて31年度に取り組むこと】

- ① **英語活動の拡充**に取り組み、32年度の全面実施（中学年で35時間・高学年で70時間の実施）に向けた見直しをもつこと。
- ② **140周年行事に向けて、準備委員会**を立ち上げ、周年の準備を進めていく。
- ③ 校内研究において、引き続き、「論理的に考え、よりよく表現する児童の育成」を**追求した授業改善**を推進していくことを通じて、「主体的、対話的で深い学び」を具現化する授業の探求に努めていく。
- ④ 地域とのコラボで、5年生の7-11との学習について具現化を進める。